家団 みと思います。 ではなかったのかと避難先からしみじ ゆっくりと語らいあう時間を持つ日々

えます 提案を拝聴することができました。 ます。 実現化に向けて施策に反映したいと考 れらを無にすることなく、 において皆さまから貴重なご意見・ご の未課題解決にむけて邁進してまいり 要求してまいりました。 理と医療保障の充実を国、 昨年は町として賠償・除染・健康管 また、全国各地での住民説明会 本年はこれら 東電に強く 可能な限り ح

特に、「町民の暮らしの再建」では、

たちの絆、 「町外コミュニティの整備」では、 町民同志の絆を強化します。 居

協議し、 災害公営住宅の建設に着手してまいり ます。 住希望規模により受け入れ先自治体と できうる限り早く条件整備し、

します。 点を置き、 着手するとともに、 りますが、一筋の光を求め強力に推進いずれの施策も暗闇の手探りからであ 「ふるさとの再生」では、 本格的に復旧を開始します。 浪江町内に復興拠 本格除染に

らい日が続いておりますが暮らし方に さて、 町民の皆さまには苦しい、 つ

す。

皆さまにとりまして幸多い年となりま

すようご祈念し、新年のご挨拶としま

にして、 Ę です。 す。 日はまた新しい自分が生まれてくる。」 数も日によって変わる。 れの日と雨の日では違う たりともありません。・・・〈日々新た よって全く違う姿を見せてくれる。 結びになりますが、寒い日が続きま 参考になれば望外の幸福です。 何卒ご自愛いただき、 今日のことは今日で終わり、 また日新たなり。〉人間も同じ 同じ庭は一日 Ų 今年一 落ち葉の 年 が 日 に 眀 晴

心寂しい2回目の正月を迎えま 新春とは名ばかり、 と感じる 新

年

を

迎えて

浪江町議会議長

吉

田

数

博

じており残念に思います。 じており残念に思います。 感じております 継ぐ責任を果たす重大な責務を 議会における事故対応

た自治体に対する支援強化等々免措置の継続、復旧復興に向け

免措置の継続、復旧復興に向け一部負担金免除、保険料等の減高速道無料化の延長、医療費の町外コミュニティの早期対策、 要求活動をして参りました。ま行い、国、県、東電等に要請・名の参加をいただき意見集約を た、 と等を決定いたしました。の25%削減を任期中継続するこ 県内外53会場において2265 4名削減とすること、 当面、除染、賠償、健康管理、 内外53会易こう、、町民との懇談会を開催し、 議員の定数も次回選挙から 議会報等でお知ら 議員報酬

染、

賠償、

健康管理を最重要課

は復興元年と位置づけられ、

除

かりかと拝察いたします。昨年られた皆さま方のお心はいかば

した。

故郷を離れて新春を迎え

たが、国、県、東電の対応はス題として取り組んでまいりまし

立ったものとなっていないと感ピード感がなく被災者の立場に

いります。 町ともども全力で取り組んでま 数限りない課題がありますが、 今後警戒区域の見直しが行わ

頭のご挨拶とい

、たします。

昨年の

残した言葉があります。 請戸小の黒板に自衛隊員が書き 「天は乗 » ですが、あきらめない気持 ですが、あきらめない気持 ですが、あきらめない気持 償問題、 す。 えの再生をご祈念申し上げ、 ちを大切に絆を深め、 日 試練しか与えない。 来ごみの処理対策等々でありま 生します。 が始まりますが、反面課題も発れると除染が開始され復旧復興 かりと対応して参ります。 レキの撤去等を含む。)、 の整備(道路の補修、 万全な体制を求める等 防犯防災対策、 。密接な関係にある賠ますが、反面課題も発 除草、 生活由 ^{哧草}、ガ l つ

浪江町議会議員 Ξ 紺 渡 田 橋 泉 横 若 愛 馬 佐 勝 佐 佐 鈴 山 小 山 々 々 場 木 瓶 黒 木 野 藤 尻 田 月 澤 山 木 部 Л 山 本 崎 英 寶 敬 恵 榮 辰 良 光 芳 幸 文 貞 重 精 博 郎 文 格 三寿重子行信 作 雄 章一 則 績 夫 次美



H 々 ま新たた ま 浪 江 馬 町 長 場 な Ŋ

有



被災地を離れて、二度目のお正月を	財物賠償の拡充化要求をしてまいりま	一工夫し、視点を変えて前に一歩進め
迎えました。それぞれ皆さまには住み	す。また、精神的損害賠償について増	る気持ちで、困難を克服していただき
慣れた家〈故郷〉を思い出しての新年	額要求し、町が代理人となり原発AD	たいと念願しております。参考に私が
ではないかと拝察いたします。あの震	R(原子力損害賠償紛争解決センター)	最近読んだ書物を引用します。
災・原発事故が無ければ正月は普段、一	へ申し立てをしたいと考えておりま	「自然の世界は毎日が新しい。・・・
家団らん家族が集まり領を見ながら	す。さっこ、県内水こ 産事る子ども	司ご庭であるこもかかわらず、日こ